

在籍校名 八女市立星野小学校
職・氏名 教諭 鳥井 勇佑

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 「現在の自分を見つめ、将来に向けて自己の在り方を考えることができる子供を育てる
キャリア教育の指導
—ICT 機器を活用した情報の収集・分析を通して—」

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

令和元年度の全国学力・学習状況調査では「将来の夢や目標をもっていますか」という項目において過去10年間で最も低い結果が出ている。「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」(平成26年文部科学省)においては、近い将来に加えて、遠い将来のことも意識しながら教え導くことがキャリア教育においては重要であると述べられている。学習指導要領改訂により小学校の特別活動において学級活動(3)が新設され、現在及び将来にわたってよりよく生きるために自分に合った目標を立てることが求められている。そこで、今年度から一人一台整備されているタブレットを活用することで、将来よりよく生きることにつながる、社会に出るために必要な力についての情報を収集し現在と将来のつながりを意識させ、他者と考えを共有する中で分析し、現在の自分を見つめ、将来に向けて自己の在り方を考えさせていきたい。

イ 研究の目的

本研究では、現在の自分を見つめ、将来に向けて自己の在り方を考えることができる子供を育てるために、小学校第6学年においてICT 機器を活用して情報を収集・分析する活動の有効性を明らかにする。

ウ 研究の仮説

ICT 機器を活用し情報を収集・分析する活動を行えば、現在の自分と社会に出るために必要な力を結び付け、現在の学習が将来につながっていることに気付くこととなり、将来に向けて自己の在り方を考えることができる子供が育つであろう。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

(7) 主題について

「現在の自分を見つめ」とは、自分の良さや苦手なことなど、自分の現状について考えることであるとともに、友達や保護者、教師に自分自身の良さや可能性についての情報をもらうことで自己理解を深め、客観的に自分自身のことを考えている姿である。また、社会に出るために必要な力を理解していく中で、自分自身と向き合っている姿でもある。

「将来に向けて自己の在り方を考える」とは、収集した社会に出るために必要な力に関する情報と現在の自分の姿を比べ、今後何を伸ばしていけばよいのかを分析する活動を通して、自分自身がこういう人間でありたい、こういう人間を目指そうという目標をもち、将来社会に出る時のことを考えて今後の自己の在り方を設定することである。今後の自己の在り方というのは、空想的なものを設定することではなく、現在の自分と向き合い、これから自分が伸ばしていきたい実現可能なものを指す。本研究の「キャリア教育」では「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の学習過程を段階的に仕組み、基礎的・汎用的能力の育成を目指すものである。基礎的・汎用的能力は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」がそれぞれ関わり合って育まれるものである。その中でも今回はキャリアプランニング能力の育成に焦点を絞り、目指す姿を以下のように示す。

目指すキャリアプランニング能力	
○ 社会に出るために必要な力について理解することができる	【知識及び技能】
○ 現在の自分を見つめ、将来に向けて自己の在り方を考えることができる	【思考力、判断力、表現力等】
○ 将来に向けて自己の在り方を考え、自己実現を図ろうとする態度を養う	【学びに向かう力、人間性等】

(イ) 副題について

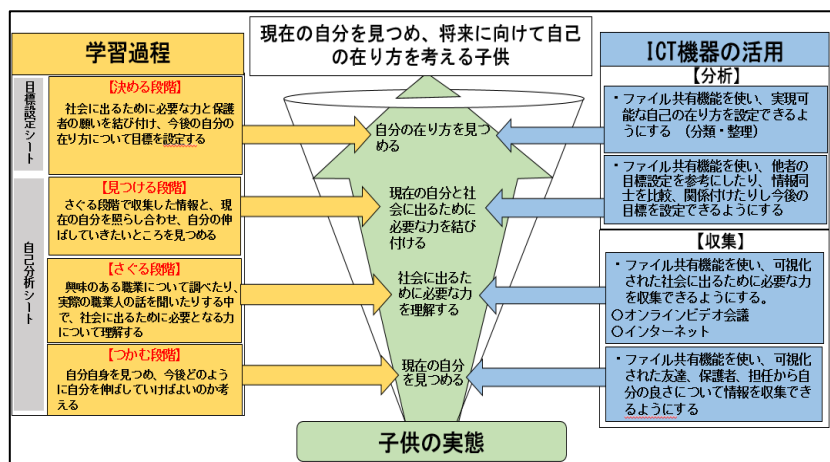
「ICT 機器を活用した情報の収集・分析」の「収集」とは、友達や保護者、教師から見ての自分の良さについて、自分自身を見つめての現在の自分、インターネットで調べた興味のある職業やオンラインビデオ会議で職業人から話を聞いた、仕事の内容ややりがい等を共有し、データとして保存することである。自分の良さについて他者から情報をもらうことは、客観的な視点で現在の自分を見つめることにつながる。また、インターネットを活用することで、すぐに目的に沿った多くの資料を見つけることができる。さらにオンラインビデオ会議を活用すれば、学校の場所によって時間的、空間的な制限があり都合のつきにくかった職業人の話を聞くことができる。このように、ICT 機器を活用すれば、より目的に沿った多くの情報を収集することができる。「分析」とは、現在の自分の姿と社会に出るために必要な力を比較、関連付け、自分の苦手なところや不十分さ、既にもっている良さに気づき、今後の自己の在り方を考えることである。つまり、収集した情報を基に社会に出るために必要な力と現在の自分自身を結び付けて今後の自分の伸ばしていきたいことを発見したり、実現可能な自分の在り方を考えたりすることである。そのために、ファイル共有機能を使い、他者の情報を参考にしながら、自分に必要なものを追加したり、実現可能な自己の在り方を分類・整理したりできるようにする。ICT 機器を活用し、クラス全員の情報を一斉に共有すれば、自分と他者の考えをリアルタイムで比較でき、その中で、自分の考えを深め、操作しながら自己の在り方を考えることができる。

イ 研究の内容(図1)

本研究では、ICT 機器を活用して「つかむ」「さぐる」段階に情報の「収集」を、「見つける」「決める」段階に情報の「分析」を位置付けた活動を行っていく。情報を収集・分析したものにおいては自己分析シートと目標設定シートを活用し、考えを深めていく。

(ア) つかむ段階

現在の自分を見つめさせるために他者からの情報を参考にし、自己分析を行わせる。本研究では友達、教師、保護者から自分の良さについての情報を収集する。他者からの情報を参考にすることで自分では気付かない良さを知ることができ、自己理解を深められると考える。



(イ) さぐる段階

興味のある職業を調べたり、オンラインビデオ会議で実際に職業人による話を聞いたりする中で、社会に出るために必要な力について情報を収集させる。職業人から子供時代に頑張ったことが社会に出てからも、つながっていることを話してもらい、児童は現在の学習が将来につながっていることを意識できるようになると考える。

(ウ) 見つける段階

社会に出るために必要な力と現在の自分を比較させ、伸ばしていきたい力を見つけさせる。それぞれの共通点を線で結ばせたり、現在の自分自身を改めて振り返らせたりし、今後自分の良さや苦手なことをどのように伸ばしていけばよいのか分析させる。今まで収集した社会に出るために必要な力についての情報の中で、自分が重要だと思った情報を取捨選択し、現在の自分と比較、関連付けさせることは、現在の自分を見つめ、将来を意識して自分自身を高めていこうとする児童を育成することにつながると考える。

(エ) 決める段階

今までの学習で理解したことや考えたことを基に、ICT 機器を活用し、目標設定シートを学級内で共有し、友達のを参考にしながら自分の在り方を分析する活動を仕組む。また、本研究では、日常的に子供たちの性格や行動面を知っている保護者からの願いを取り入れることで家庭と学校が連携して子供のキャリア形成を行い、より実現可能な目標設定が可能になると考える。最終的には保護者の願いと自分で考えたこれから伸ばしていきたいことを現在の自分の姿と結び付け、これからの自分自身の目標を設定する。そして、そのような自分になるための今後の自己の在り方を考えていく。ICT 機器を活用することで、クラス全体の情報を可視化し、他者がどのように自己の在り方を分析しているのかをリアルタイムで思考の過程を参考にしたり、分類・整理したりする中で、これからの自分を伸ばしていくための実現可能な自分の在り方を設定できると考える。

(3) 研究の実際

ア 実証授業の学年及び単元計画(全8時間) A市立B小学校第6学年18名

「目標をもって生きる」

段階	配時	主な学習活動	ねらいと手立て
つかむ	2	・現在の学習が将来につながっていることを理解する。 ・社会に出るためにはどのような力が必要なのか考える。	○Web アンケートで、勉強することは必要かアンケートをとる。 ○今後どのように自分を伸ばしていけばよいか考えさせる。
		・自分の良さや苦手なことについて考える。	○他者から情報をもらい、自己をより理解できるようにする。
さぐる	2	・興味のある職業について調べ、社会に出るために必要な力について考える。	○ファイル共有機能を活用し、社会に出るために必要な力についてグループで考えを共有できるようにする。
		・オンラインビデオ会議で、美容師、警察、市役所、製茶園経営者の方の話を聞き社会に出るために必要な力について考える。	○魅力ややりがいだけでなく、そのために今自分は何をしたらよいかという視点で考えさせる。
け見	1	・現在の自分と社会に出るために必要な力を結び付け、今後どんなことを伸ばしていくのか考える。	○社会に出るために必要な力と現在の自分を比較させ、共通点を線で結ばせたり、改めて自分の良さや苦手なことについて考えさせたりする。
決める	1	・今までの学習を振り返らせ、今後伸ばしていく力をつけるために、現在の自分は何を頑張ればよいか実現可能な目標を設定する。	○実現可能な目標を設定するために、ファイル共有機能を活用し、操作したり他者の情報を収集・分析させたりしながら、これからの自分を伸ばしていくための実現可能な目標を設定させる。

イ 各段階の指導の実際と考察

(7) 「つかむ」段階(第1時、第2時)

第1時では「現在の自分を見つめ、将来に向けて自分の在り方を考えよう」という8時間を貫く学習課題をもつことをねらいとした。そのために時間軸のグラフを用いて社会に出るまでの期間が長くないことに気付かせたり、社会に出るために必要な力とは何かを全員で考えさせたりした。社会に出るために必要な力について考えを共有する中で、半分以上の児童が、「将来のことなんて考えたこともない」「分からない」という記述が見られた。また、数名の児童に「コミュニケーション力」や「話す力」などの記述が見られたが、現在の自分はそれらの力を身に付けるために頑張っているか尋ねたところ、意識したことがないという反応が見られた。これらのことから、児童は社会に出るために必要な力について考えたことがなく、「自分自身がどういう人間であるのか」「社会に出るために必要な力とは何か」「現在の自分は、将来に向けて今後どのようなことをがんばればよいのか」について情報を収集・分析させる必要があると考えた。現在の自分と将来とのつながりを考えさせる学習を

行ったことで、89%の児童が学習後の感想の中に「自分をこれから見直したい」「社会に出るために必要な力を知りたい」という記述が見られた(資料1)。

「くわしくは分からないけど、これからの学習でも、と社会のことを知りたいと思いました。こんご、自分が将来のためになにをかんはればよいのか考えたい」

資料1 第1時の児童の感想

第2時では「自分を見つめる」という部分に焦点をあて、自分の良さや苦手なことについて情報を収集し、自己理解を深める活動を仕組んだ。自分を見つめる時間では、児童の発言から「自分のことってよく分からない」「むずかしい」という反応が見られた。そこでICT機器を活用して、友達、保護者、教師から自分自身の良さについて情報を共有する活動を行った。すると93%の児童が他者からの情報により「自分の良さに気付くことができた」と学習後の感想の中に記述していた(資料2)。また、今回の自分自身を見つめる場面において、ICT機器を活用した情報の収集が自己理解を深める上で効果的であったことが学習後の感想から分かった(資料3)。

「今日の学習で、自分は、気づいていなかったけど、みんなと自分のよさがあることが周りにから、情報をもらって分かった。」

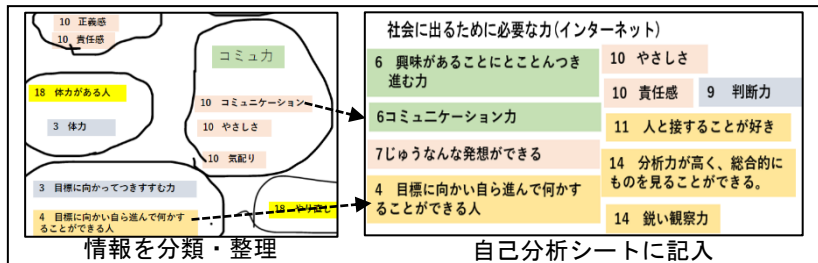
資料2 第2時の児童の感想

「みんなの意見がわかるし、タブレットでみんなに意見を送ることができるし、もらったりできるから。」

資料3 第2時の現在の自分を見つめる上でのICT機器の活用の有効性についての感想

(イ)「さぐる」段階(第3時～第6時)

第3時・第4時では、インターネット上から、情報を収集する活動を行った。その情報から、社会に出るために必要な力を理解することをねらいとした。そこで、児童にインターネット上の情報を収集させる際、的確な情報を収集させるために、教師側が準備した信頼性の高いサイトのリンク集を準備した。児童は、興味のある職業を調べる中で必要な情報だけを取り出し社会に出るために必要な力についてまとめることができた。



資料4 第4時に共有した情報を取捨選択し、自己分析シートに記入

また、社会に出るために必要な力について考えを広げるためにファイル共有機能を活用してグループで情報を整理し、その中から自分が大事だと思う情報を取捨選択し、自己分析シートに記入する作業を行った(資料4)。学習後の振り返りでは、全ての児童が社会に出るために必要な力を理解できたと回答していた。その理由として、93%の児童が他の人と考えを共有することで自分に必要な情報を見つけることができた」と記述していた(資料5)。

「みんなて意見を出しあって、広げたりまとめたりできたから。」

資料5 第4時のICT機器の有効性についての感想

第5時、第6時では、警察官、美容師、市役所職員、製茶園経営者とオンラインビデオ会議をつなぐことで、仕事のやりがいや社会に出るために必要な力について考えさせることをねらいとした。この活動の中で、児童は事前にインターネットで調べた情報で気になることや、話を聞いて疑問に思ったことを質問し、意欲的に情報を収集する姿が見られた(資料6)。



資料6 オンラインビデオ会議で情報を収集する子供

学習の最後の場面では、ファイル共有機能を活用し、それぞれが話を聞いて収集した社会に出るために必要な力を記入し、情報を整理する活動を行った。そこでは4つの職業から分かったどの職業にも共通するものや違うものを発見することができた。特に、コミュニケーション力や進んで物事に取り組むことなどは、どの仕事にも共通することを児童は気付くことができた。学習後の感想では、「普段の授業や生活で何気なく頑張っていることも、将来につながる」という記述が見られた(資料7)。これは、それぞれの職業人から、小学校の頃に頑張ったことが現在どのように生かされているのかについても話をしてもらい、児童は自分の生活や学習と重ね合わせながら話を聞くことができた結果で

あると考える。また、全ての児童が「普段は仕事の都合上めったに話を聞くことができない人たちとも、オンラインビデオ会議だから話を聞くことができた」という感想や「離れた場所からでも話を聞くことができる」といったオンラインビデオ会議の良さについて記述していた(資料8)。今回オンラインビデオ会議で学習を仕組んだことにより、学習前の調査でオンラインビデオ会議を学習の道具として認識していた児童が39%しかいなかったのに対して、学習後は全ての児童がオンラインビデオ会議を学習に効果的であると述べていた。

市役所の方から話を聞いて、ふたんから大七
 になってくるコミュニケーションが、うなづいた。い
 いねと授業につづやくことでも将来につながる
 人だと思った。

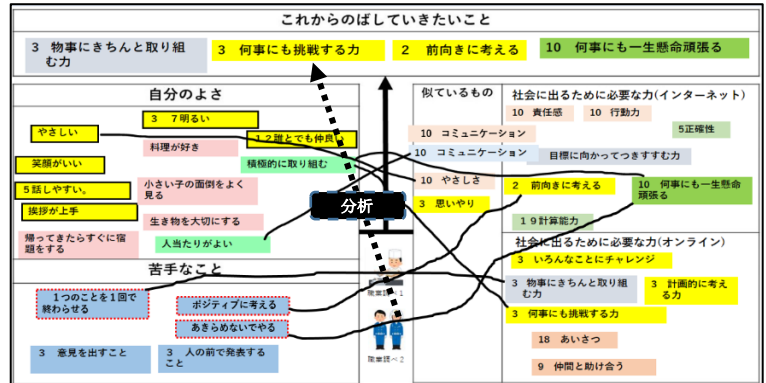
資料7 第6時の児童の感想

はなれていても僕さいた僕がいてる本の紐を聞くと
 ができ、みじかい時間だけけど将来について考えがす
 が出た。

資料8 オンラインビデオ会議の感想

(ウ)「見つける」段階(第7時)

第7時では、社会に出るために必要な力と現在の自分を結び付けてこれから伸ばしていきたいことを考えることをねらいとした。そのため、現在の自分とこれから伸ばしていきたいことを比較、関連付ける活動を仕組んだ(資料9)。児童は、可視化された友達の考えを取捨選択して情報を収集した。そして、それらと自分の考えを比較しこれから伸ばしていきたい力を考えた。その結果、児童は改めて自分自身を見つめ直し、自分自身の良さを将来生かしたいという思いや苦手なことを改善していきたいという思いをもつことができていた(資料10)。また全ての児童の感想の中に、「他の人の自己分析シートが参考になった」という記述が見られた。



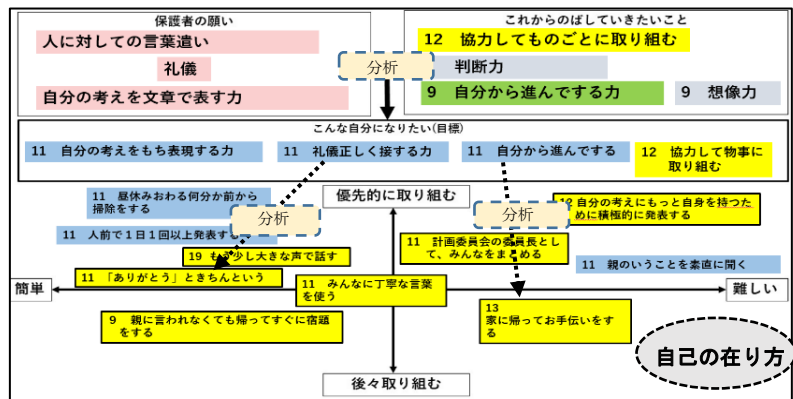
資料9 自己分析シートの活用

よさは、元気なこと、リーダーシップ
 があったり、集中力があたりした。苦手なことは、時間
 の使い方があった。だから、よさはよさでとんとんよくして
 いて、苦手なことは直していく。

資料10 第7時の児童の感想

(エ)「決める」段階(第8時)

第8時では、設定したこれから伸ばしていきたいことと、保護者の願いを結び付け、実現可能な今後の自己の在り方を考えることをねらいとした。保護者の願いの情報を与えると児童から「家族の願いは大切にしたいな」「やはり、家族が言う力は伸ばしていきたいな」という発言があった。これらのことから児童が目標を設定する際は保護者の願いは強く影響を与えると考える。すなわち、キャリア教育において児童が目標を設定する時には、学校と家庭の連携が非常に重要なことを表している。そして、その目標を達成するための実現可能な自己の在り方を考えさせる活動を仕組んだ。学習後には全ての児童が自分の学習や生活のことを見つめ直し、実現可能な今後の自己の在り方を設定することができた(資料11)。これはICT 機器を活用して情報を分類・整理したためである(資料12)。



資料11 目標設定シートの活用

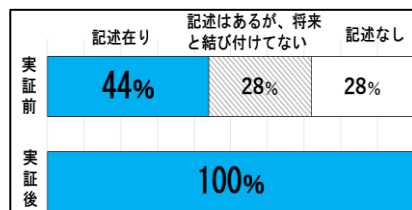
自分のできそうなことを、他の人の考えを参考に
 しながら、作ることができた。考えながら、
 今からできそうなこと、考えてないことを考えな
 がら、目標を作ることができた。

資料12 第8時の児童の様子と感想

(4) 全体考察

ア 社会に出るために必要な力について理解することができる。

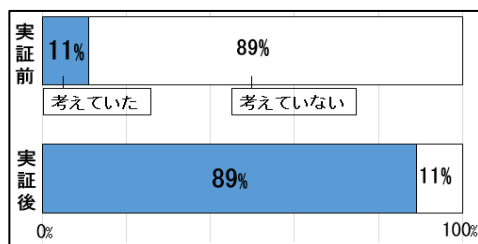
社会に出るために必要な力を分析した結果、実証前は28%の児童に記述がなく、「漢字や計算が社会に出て必要となる」と目の前の勉強のことだけを見て回答していた児童が28%いたが、実証後は全員が将来のことと結び付けて記述していた(資料13)。これはインターネットやオンラインビデオ会議で情報を収集する活動を通して、どのように現在の学習と将来が関わり合っているかを考えさせる活動を仕組んだ成果であると考えられる。



資料13 社会に出るために必要な力を記述していた児童の割合

イ 現在の自分を見つめ、将来に向けて自己の在り方を考えることができる。

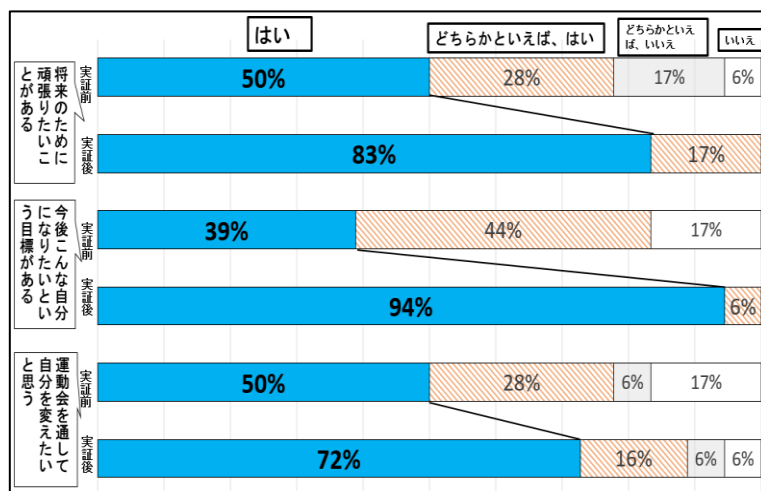
実証前の調査と比較すると、実証後に調査したアンケート結果では、89%の児童が将来に向けて自己の在り方を具体的に記述していた(資料14)。これは、自己分析シートや目標設定シートを活用し、情報を収集・分析させ、社会に出るために必要な力と現在の自分を結び付け、今後の自己の在り方を考える活動を仕組んだ成果であると考えられる。また、ICT 機器を活用しファイルを共有して情報を可視化したことで「クラス全員の考えを参考にしながら目標を設定できた」「分類・整理することで今後自分が頑張っていくことを見つけることができた」など、今後の自己の在り方を考える際に、ICT 機器を活用した情報の収集・分析の有効性について述べていた児童が84%いた。



資料14 将来に向けて自己の在り方を具体的に記述した児童の割合

ウ 将来に向けて自己の在り方を考え、自己実現を図ろうとする態度を養う。

単元全体を通しての感想から全ての児童に、「こんな自分になりたい」「将来のために、現在の学習をがんばりたい」等、学ぶことの意義について考えた記述が見られた。また、実証前の調査と比較すると実証後の調査では、キャリアプランニング能力に関わる全ての項目で意識の高まりが見られた(資料15)。これは段階的に学習過程を仕組み、将来社会に出るために必要な力を収集し、現在の自分を見つめる活動を通して、実現可能な目標を分析したからであると考えられる。



資料15 児童の意識の変容

(5) 研究成果と今後の課題

ア 研究成果

- 各段階においてICT機器を活用して、将来よりよく生きることにつながる、将来社会に出るために必要な力を収集し、現在の自分と比較関連付け、今後の自己の在り方を分析させることはキャリアプランニング能力を育む上で有効であった。

イ 今後の課題

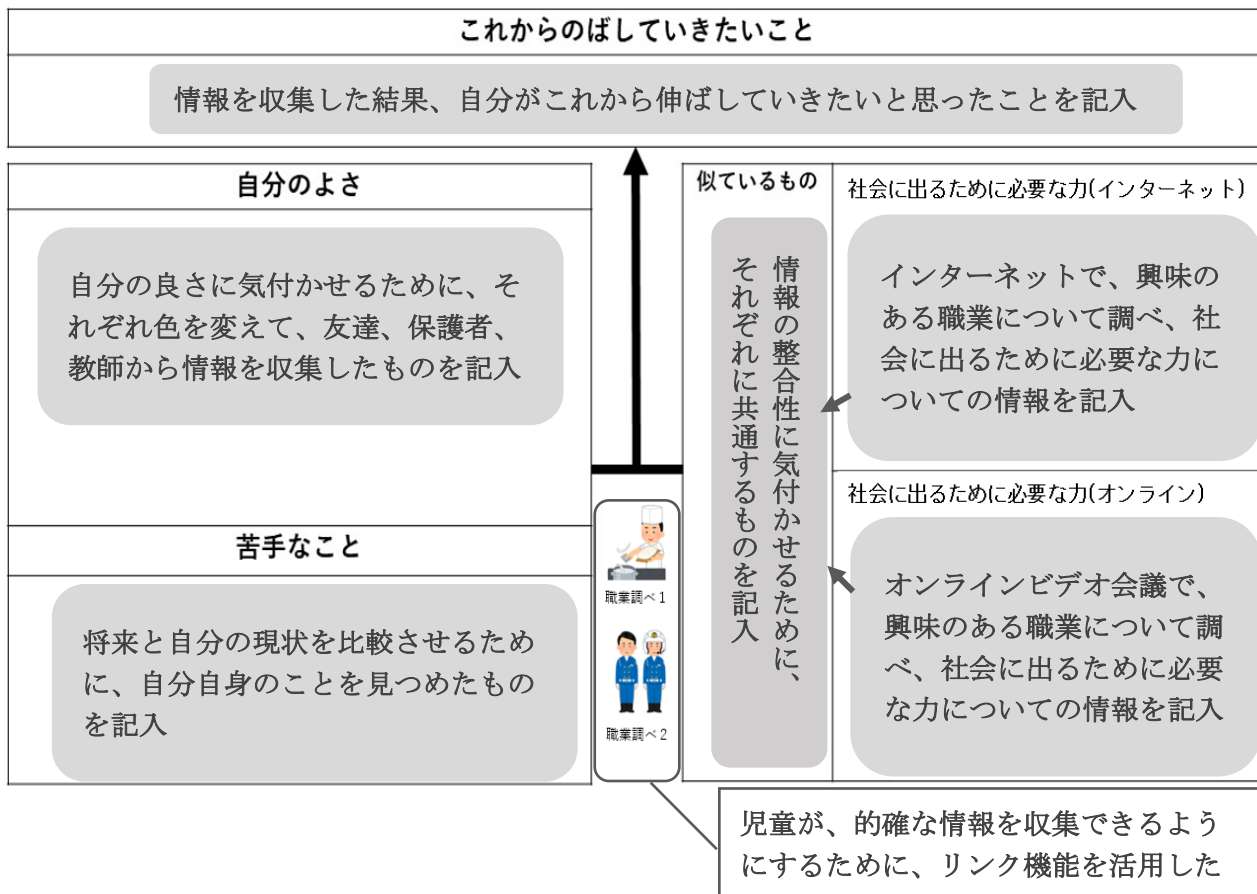
- 自己の在り方をさらに深めるために、ICT 機器を活用し、自己分析シートと目標設定シートを共有した振り返りの交流を仕組む必要がある。

<参考文献>

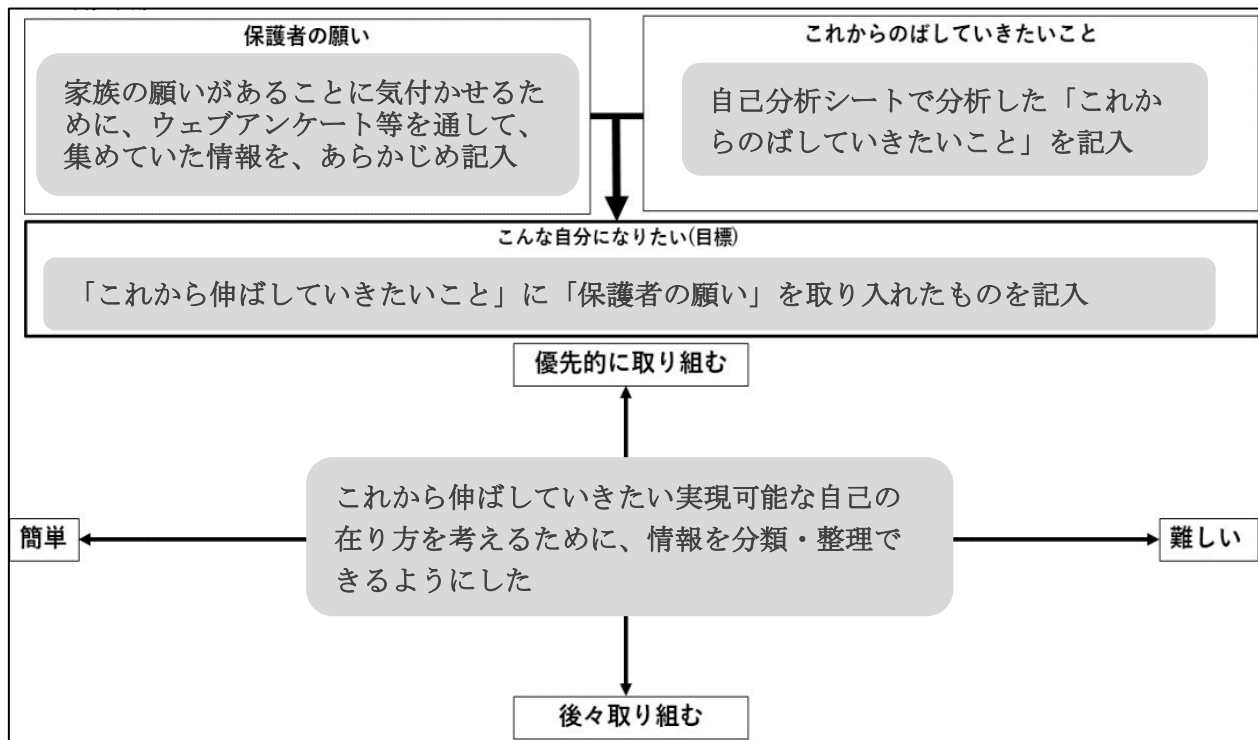
- ・ 文部科学省(2019) 『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動』 文溪堂
- ・ 樋口万太郎(2021) 『GIGAスクール構想で変える！一人一台端末時代の授業づくり』 明治図書

【添付資料】

○ 自己分析シートの活用



○ 目標設定シートの活用



○ 小学校キャリア教育における到達度

	人間関係形成 社会形成能力	自己理解 自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング 能力
第1学年	友達と仲良く助け合う。	自分ができること、やりたいことが分かる。	自分に必要な本や図鑑を見つけることができる。	家でできる仕事を探し、進んで行うことができる。
第2学年	自分の考えをみんなに話すことができる。	自分の良さを見つけることができる。	自分が調べようとする課題を見つけることができる。	仕事をする楽しさに気付くことができるようにする。
第3学年	係や当番の仕事を工夫して、進んで取り組むことができる。	自分のできることが分かり、自分のことは自分であることができる。	分からないことを本や図鑑で調べたり、人に聞いたりすることができる。	仕事をする上で、互いの役割や役割分担の必要性が分かる。
第4学年	友達の良さを見つけることができる。	自分の長所や短所を見つけることができる。	課題を見つけ、いろいろな方法で解決することができる。	いろいろな職業があることについて知り、進んで学ぼうとすることができる。
第5学年	伝えたいことを分かりやすく相手に伝える。	目標に向かって努力し続けることができる。	新たな課題に向かって見通しをもって取り組むことができる。	体験を通して、働くことの大切さや苦勞を知る。
第6学年	友達の立場や考えを理解することができる。	自分の長所や短所を知り、自分のできることややりたいことを見つけることができる。	資料やインターネットを使って必要な情報を集めそれを活用することができる。	働く意味や生き方のすばらしさ、将来に向けて、自分の在り方を考えることができる。

※「キャリア教育の手引き」を基に、在籍校の実態に合わせて作成。

○ 実証授業後のICT機器活用の有効性に関する意識調査

